（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社　二千翔		
事業所名	グループホーム　ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町４丁目19-27		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年7月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600053-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北２条４丁目１-2
訪問調査日	令和4年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念《ありがとう　言われるよりも伝えたい》
　人生の先輩である入居者の方たちに敬意をもって、日々『ありがとう』と感謝を伝えられるような支援を目指しています。コロナ禍の中、面会制限がありますが、少しでも顔を見て安心できるよう、感染対策を行っています。いつでも足を運びやすいように近況報告の写真やお手紙・電話など全職員がご家族様との関係づくりに努めています。どんな状況になろうと、ここを《終の棲家》として、ご家族様と一緒に看取りまで安心して暮らせるように、全職員が理念を基に取り組んでいます。ご家族様にとって実家のような心地よさを退去後までも感じていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームほたるは、市の中心部から東方、緑の多い新興住宅街にあります。近隣には若い世代の住人が多く、子供達との交流に取組んでいます。コロナ禍の現在も、近隣の小学校で認知症キッズサポーター養成講座に協力しています。また、保育園からは敬老会にメッセージカードが届くなど、今までの関わりが継続できるように努めています。自由な交流や外出に制限がある中、屋内で「買い物ごっこ」や、「回転寿司」を催し、庭先ではバーベキューやお茶会、野菜の生育や収穫を楽しむなど、職員の発案と努力で気分転換や楽しみの時間を工夫しています。家族の不安や絆が途切れない配慮には、毎月通信と手紙、管理者からのお知らせ、さらに通常の電話連絡は担当職員が行い、利用者の様子を詳しく報告し、対話を重視しています。開設時より、共に過ごす利用者の終末の時を支えたいと、医療連携と職員チームで、丁寧な支援を行っています。生活全般を通して利用者の意向に沿う過ごし方や、個人のプライバシーや人格尊重を意識したケアを検討し、利用者主体に軸足を置いて支援しています。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
		○	2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
		○	4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）	○	1　ほぼ全ての家族と
			2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
			2　数日に1回程度
		○	3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
			2　少しずつ増えている
		○	3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでもだれにでも見えるように、玄関に掲示し、理念を共有できるよう努めている	事業所内で協議し策定した理念は、玄関や事務室に掲示し、新職員には入職時に理念の意味合いを説明しています。支援の中で課題が生じた時などは理念に照らし合わせて話し合い、職員の個性を活かしつつ、サービスの根幹に理念を置くことを確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校2校、中学校、保育園と交流できていたが、コロナ禍のため現在中止している	現在、地域住民や子供達との直接的交流は自粛していますが、要請のあった小学校には認知症キッズサポーター養成講座に協力しています。近隣の保育園からは敬老の日にお祝いメッセージが届くなど、関わりが継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を毎年小学校2校に職員が出向き行っているが、現在コロナ禍のため中止している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・民生委員・市職員にも参加していただき意見を取り入れていたが、コロナ禍のため中止している	感染症対策のため書面会議とし、利用者や運営の状況、事故等の報告や行事活動などを議事録にまとめ、構成員と家族に報告しています。令和3年度は1回のみの開催となっています。	書面会議も含め、定期的な会議の開催を期待します。また、積極的に構成員や家族から意見や情報等を聞き取り、多様な視点を運営やサービスに活かしていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいていたが、コロナ禍のため中止している	市の担当部署とは、都度運営やサービス上の不明点を相談し、事故報告等の直接持参や実地指導などでも助言や指導を得ています。地域包括支援センター職員とも入居相談などで協働関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、3ヶ月に1度身体拘束廃止推進委員会において意見交換・勉強会を実施している	身体拘束に係る指針を基に、委員会と勉強会の内容は全職員で共有しています。スピーチロックは職員間で意識して注意し合い、具体例を取り上げ、適切なケアの在り方の共通理解を深めています。利用者の現状課題に対する原因や対応策を検討し、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため外部研修会に参加できないが、身体拘束廃止推進委員会やカンファレンスなどで職員が話し合い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別時間を設けてはいないが、話し合う環境はできているため活用できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問などをしっかりお聞きし、十分に説明させていただき、契約へとつなげている。また改定時には同意書をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のほたる通信送付時、ケアプラン変更時などご意見ご希望を気軽に言い出せる関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを重視し、個別の通信や手紙、管理者からのお知らせを送付しています。また、連絡電話は担当職員が主に行うなど、利用者の様子を詳しく伝えることで、意見等を表しやすい環境を作っています。面会の要望は、感染状況を鑑みて、できる範囲で対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個人面談など意見や提案を聞く機会を設けている	職員の意見等は、会議や業務の中で把握し、コロナ禍でのストレスなどは、管理者やリーダーが聞き取るようにしています。職員からは、認知症高齢者に対する接遇などの学びたい内容が出され、次年度の研修に反映するなど、モチベーションの向上につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員で話し合い、負担が軽減できるよう働きやすい環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため外部研修会には参加できていないが、本人の希望を聞きながら参加できるように進めていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍のため交流できていない		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話や本人の表情を見ながら、安心して生活できるよう関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在面会が制限されている中で、電話や手紙を用いて共に支えていける関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いの中から一人ひとりに合ったケアプランを作成。職員は確認しながらケアプランに沿った支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は見守り、できない事は支え合う事で笑い合える関係性が気づけるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、個別の通信・手紙で現状報告を行い、通信支援も行いながら、繋がりが途切れないように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、電話、年賀状などで繋がりが持てるよう支援している	家族からの電話や手紙を取り次ぎ、窓越しの面会などで絆が途切れないよう双方の間を取り持っています。テレビを見ながら故郷や見覚えた場所の話を広げるようにしています。また、美容師である運営者は、顔馴染みの訪問美容師として来訪しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりを理解し自由に生活していけるよう支援している。トラブル・事故につながらないように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も尋ねてくださったり、手紙を送り合ったりと、関係は続いている		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族にも聞きながらカンファレンスで話し合い、困難な場合の対応など、意見交換し検討している	職員は、日常の中で利用者の思いや意向を聞き、状況や言葉を記録して全員の共有にしています。家族や担当の職員からの情報を踏まえ、毎月の会議で本人の思いに沿う暮らしを協議しています。早朝の草取りを行いたいとの希望は、家族とも相談し、実現につなげています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に聞く事はもちろん、前ケアマネージャーからのフェイスシートや情報を全職員で共有し、把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言葉、状況をサービス提供記録・経過記録に記載し把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にチェックシートを作成しカンファレンスで現状確認を行いより良い介護計画になるよう努めている	定期や状態の変化に応じて介護計画を見直しています。全職員が個々の課題整理統括票を記入し、より詳しく現状を捉えることで、その時点に即したニーズを導き出しています。本人、家族の意向、医療関係者の意見を踏まえ、具体的な支援目標を立案しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録、経過記録で情報を共有し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせた柔軟な対応を常に心がけ、一人ひとりに合わせた支援をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物は現在中止しているため貸し出しサービスなどを利用し楽しんでもらえるよう工夫している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師・主治医と連絡を取り合い、本人や家族が望む医療を選び受けられるよう努めている	受診先の希望は入居時に話し合い、協力医療機関の訪問診療も選択できます。家族が付き添う受診では、メモや文書で本人の状況を渡し、不安なく受診できるようにしています。週1回の訪問看護師による健康管理があり、適切な医療を受けられるようにしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週１回の定期訪問だけでなく、２４時間体制で相談でき、適切な助言を受けられるようになっている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換を行い、訪問看護師・主治医と連携し早期退院にむけ、退院後の対応などを行える関係づくりができている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応や終末期の在り方を入居時より何度も話し合い主治医・訪問看護師とも方針を共有し支援している	終末期の在り方は、入居時や変化の過程で話し合いを重ねています。重篤状況では主治医の下で家族、看護師、職員で方針の共有を行っています。開設時より取り組んできた看取りケアの経験と、技術を磨きながら、医療連携と職員チームで、終末期を支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、離設時など落ち着いて対応できるよう避難訓練以外にも話し合っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し全職員が見についている	年2回、昼・夜を想定した自主避訓練を行っています。水、食料等の備蓄や各種備品を用意し、停電時に備えて発電機の操作を確認しています。非常時には近隣の住民や保育園と、相互に協力することを話し合っています。	地震や水害など自然災害に対する実践的な訓練を期待します。また、地域の避難場所である小、中学校での認知症利用者の受け入れ体制を確認し、円滑な利用に向け準備を進めることを期待します。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた支援ができるよう、職員は意見交換を行い、より良い対応につながるよう努めている	運営方針に人格の尊重を掲げており、利用者の理解を深め、統一した支援を提供できるよう話し合っています。普段の対話を多くし、反応のない利用者にも、きちんと言葉を掛けて介助するなど、繰り返して基本姿勢を確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定できるような声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースを大切にし、日常会話を通し希望通りの暮らしを送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、個々の好みを把握し対応できている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、準備段階から片付けまでを一緒に行っている	外部の食材と献立を基本に、時にはアレンジしたり、畑の野菜も一品の料理に加えています。月1回程は利用者の希望を聞きながら、味を選べるラーメン、焼き肉や巻きずし、おやつにお汁粉作りをするなど、変化も取り入れています。個別の食事介助法を学び、美味しく安全に食事ができるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分チェックシートで常に把握できている。個々に応じた形態・量も工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に毎食後は行えていないが、起床時・就寝時には行い、必要に応じ歯科医師の指導を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を促し誘導で来ている。オムツの可否や種類も職員間で常に話し合えている	全員の排泄状況を確認し、パットやおむつの使用は、随時排泄量や回数に適した手当てや介助方法を検討しています。座位が保てる限りトイレでの排泄を促し、居室での介助も含め、羞恥心に十分配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にのみ頼らず、飲み物や食べ物、適度の運動を心がけ工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人や家族の希望も取り入れ、曜日・時間に関係なく入浴できるように支援している	時間や曜日を決めずに、個別に週2～3回の入浴を支援しています。時間帯や順番の希望に沿い、同性介助の対応も、利用者のその時の気分を受けて柔軟対応しています。拒む場合は、何が気になっているのか理由を考え、対応を変更することでスムーズに入浴できるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣を大事にしながら、状態を見て時間にとらわれず休息できるように対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はいつでも確認できるようになっており理解できている。変化があれば話し合いを行い、訪問看護師や主治医に相談している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や希望に寄り添い季節ごとのイベントを通して楽しみ気分転換できるように努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はできていない。様子を見ながら少しずつ再開できるよう支援していきたい	外出行事や自由な買い物は中断していますが、外気に触れる機会作りをしています。テラスに出て日光浴、バーベキューやアイスを食べたり、草取りや野菜の収穫、洗濯物干しなど、日常の中で戸外に出ることを支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行けていない為、施設内で買い物の場を提供する工夫をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に連絡できる事は伝えている。状況により職員が対応したり、携帯電話で連絡を取っている方もいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者自ら気付かれた時は一緒に工夫し、清潔感を保ち安全に生活できるように努め、飾り付けなどで季節を感じられるように工夫している	日中はリビングで過ごす利用者が多く、それぞれのできる事を行いながら過ごしています。季節飾りのクリスマスツリーは利用者と一緒に飾り、大きな窓から射す陽光には、利用者自らがカーテンを掛けられるよう言葉を掛けています。車椅子でも支障無く動くことができるよう、家具を配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり思い思いに過ごせるようにレイアウトには常に気を配っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた物を持ち込み、居心地良く過ごせるような飾り付けに配慮している	入口に本人が選んだ表札を掛け、自室を認識しやすく工夫しています。レイアウトは利用者と担当職員が話し合い、安全に本人らしく過ごせる設えにしています。自宅から家具やテレビ、家族写真や縫いぐるみなどが持ち込まれ、仏壇のお供えを日課とする人もいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安を感じないようにわかりやすく伝える工夫、動線の確保等の環境整備をしている		